

[119]文學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4772788>

出版情報：文學研究. 119, 2022-03-14. Faculty of Humanities, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



辛島 正雄 教授

辛島正雄教授略歴

- 一九五五年十二月 広島市に生まれる
- 一九七八年三月 九州大学文学部国語学・国文学科卒業
- 一九七八年四月 九州大学大学院文学研究科国語学・国文学専攻修士課程入学
- 一九八二年三月 九州大学大学院文学研究科国語学・国文学専攻博士後期課程中途退学
- 一九八二年四月 九州大学文学部助手
- 一九八五年四月 徳島大学教養部講師
- 一九八七年四月 徳島大学教養部助教授
- 一九八八年十月 九州大学教養部助教授
- 一九九四年四月 九州大学文学部助教授
- 二〇〇〇年四月 九州大学大学院人文科学研究院助教授
- 二〇〇七年四月 九州大学大学院人文科学研究院准教授
- 二〇〇八年四月 九州大学大学院人文科学研究院教授
- 二〇二一年三月 定年退職
- 二〇二一年五月 九州大学名誉教授の称号を授与される

辛島正雄教授著作目録

著 書

- 『我身にたどる姫君①⑦』（共著）
桜楓社 一九八三年四月～十月
- 『私家集全釈叢書10 源兼澄集全釈』（共著）
風間書房 一九九一年一月
- 『新日本古典文学大系26 堤中納言物語 とりかへばや物語』（共著）
岩波書店 一九九二年三月
- 『中世王朝物語全集9 小夜衣』（単著）
笠間書院 一九九七年十二月
- 『中世王朝物語史論』（単著）
上巻Ⅱ笠間書院 二〇〇一年五月
下巻Ⅱ笠間書院 二〇〇一年九月
- 『御津の浜松一言抄——『浜松中納言物語』を最終巻から読み解く』（単著）
九州大学出版会 二〇一五年三月
- 『在明の別残月抄——天下の孤本を新しい校訂本文で読み解く』（単著）
九州大学出版会 二〇二一年三月

論 文

『とりかへばや物語』における『源氏物語』摂取——四の君密通事件の場合——

『語文研究』47号 九州大学国語国文学会

一九七九年六月

『とりかへばや物語』 四の君密通事件続攷——『源氏物語』 撰取について——

『文献探究』 4号 文献探究の会 一九七九年 六月

『風に紅葉』 物語覚書 (一)

『文献探究』 8号 文献探究の会 一九八一年 六月

『風に紅葉』 物語覚書 (二)

『文献探究』 9号 文献探究の会 一九八一年十二月

『我身にたどる姫君』の一面——ある女系の「年代記」——『今井源衛教授退官記念 文学論叢』九州大学文学部国語学国文学研究室

一九八二年 六月

『とりかへばや物語』と『源氏物語』——〈物語取り〉の側面——

『文学研究』 80輯 九州大学文学部 一九八三年 二月

『風に紅葉』 物語の完結性について——覚書 (三)——

『文献探究』 11号 文献探究の会 一九八三年 三月

『兵部卿物語』の成立時期をめぐって

『文献探究』 13号 文献探究の会 一九八三年十二月

『木幡の時雨』の再検討——中世物語史・序説——

『文学研究』 81輯 九州大学文学部 一九八四年 二月

『兵部卿物語』の成立時期をめぐって・補正——宮田和一郎氏の『兵部卿物語』校注——

『文献探究』 15号 文献探究の会 一九八五年 二月

『八重葎』 物語覚書——中世物語における『狭衣物語』受容の問題と『八重葎』の位置——

『文学研究』 82輯 九州大学文学部 一九八五年 三月

中世物語史私注——『いはでしのぶ』『恋路ゆかしき大将』『風に紅葉』をめぐって——

『徳島大学教養部紀要(人文・社会科学)』 21巻 徳島大学教養部

一九八六年 三月

中世擬古物語研究への一視点——『浅茅が露』『増鏡』所見の類話のことなど——

『文献探究』 17号 文献探究の会 一九八六年 三月

- 『浅茅が露』管見——主題性と物語史的位置—— 『国語と国文学』 63巻4号 東京大学国語国文学会 一九八六年四月
- 『浅茅が露』作者考・序章——藤原為家作者説の仮説—— 『語文研究』 61号 九州大学国語国文学会 一九八六年六月
- 『むぐらの宿』について 『徳島大学教養部紀要』 22巻 徳島大学教養部 一九八七年三月
- 擬古物語とお伽草子の間——新出『あきざり』物語をめぐって—— 『文学』 56巻1号 岩波書店 一九八八年一月
- 『今とりかへばや』序説——古本からの飛翔—— 『徳島大学教養部紀要』 23巻 徳島大学教養部 一九八八年三月
- 『幻』巻異聞——『無名草子』の評言から—— 『徳島大学教養部紀要』 24巻 徳島大学教養部 一九八九年三月
- 『我身にたどる姫君』の女帝——物語史における女主人公の系譜—— 『徳島大学国語国文学』 2号 徳島大学国語国文学会 一九八九年三月
- 物語史〈源氏以後〉・断章——『夜の寢覚』『今とりかへばや』から『我身にたどる姫君』へ—— 『源氏物語とその周縁』 和泉書院 一九八九年六月
- 『浅茅が露』作者考——藤原為家作者説の可能性—— 『語文研究』 66・67号 九州大学国語国文学会 一九八九年六月
- 『無名草子』の本文 『文学論輯』 35号 九州大学教養部 一九八九年十二月
- 『今とりかへばや』の人物と構造——『竹取物語』の影—— 『論集 源氏物語とその前後1』 新典社 一九九〇年五月
- 『在明の別』覚書 『リポート笠間』 31号 笠間書院 一九九〇年十月
- 校注『風に紅葉』——巻一—— 『文学論輯』 36号 九州大学教養部 一九九〇年十二月
- 〈女の物語〉論のために——「世の中」の基底—— 『徳島大学国語国文学』 5号 徳島大学国語国文学会 一九九二年三月
- 校注『風に紅葉』——巻二—— 『文学論輯』 37号 九州大学教養部 一九九二年三月
- 「名のりをしつつかぬ」女君の物語——『朝倉』物語管見—— 『論集 源氏物語とその前後3』 新典社 一九九二年五月

『今とりかへばや』の女中納言と四の君とをめぐる断章——〈女の物語〉の思想、あるいはレイプの政治学——

『古典研究』1号 古典研究同人 一九九二年十月

『無名草子』にみる信仰——女を論ずることの基底—— 『国文学解釈と鑑賞』57巻12号 至文堂 一九九二年十二月

『我身にたどる姫君』の女帝と前斎宮とをめぐる断章——レズビアンの物語の示唆するもの——

『文学論輯』38号 九州大学教養部 一九九三年三月

「宇治の橋姫」の呪縛 『新日本古典文学大系42』月報 岩波書店 一九九三年三月

「虫めぐる姫君」管見——「かは虫」と〈少女〉—— 『文学論輯』39号 九州大学教養部 一九九四年一月

「この世に恨みのこることもはべらず」——「若菜」以後の朱雀院（一）—— 『文学研究』93輯 九州大学文学部 一九九六年三月

『栄花物語』本文校訂異見——「有国が恥は恥が恥にもあらざりけり」—— 『季刊ぐんしよ』再刊36号 続群書類従完成会 一九九七年四月

蝙蝠と駒と昼寝の物語——散逸『こまの物語』をめぐる断章—— 『源氏物語とその前後研究と資料』古代文学論叢 第14輯 武蔵野書院 一九九七年七月

中世王朝物語の特質——趣向 『中世王朝物語を学ぶ人のために』世界思想社 一九九七年九月

あめわかみこ往還——お伽草子『あめわかみこ』とその源流—— 『説話論集』第8集 絵巻・室町物語と説話 清文堂 一九九八年八月

〈物語取り〉のゆくえ——『小夜衣』における『源氏』『狭衣』剽窃—— 『実践女子大学文芸資料研究所電子叢書Ⅰ』物語史研究の方法と展望 実践女子大学文芸資料研究所 一九九九年三月

「明石」巻の「海人の子」をめぐる覚書——散逸『あま入』物語のことなど——

『文学研究』97輯 九州大学文学部

二〇〇〇年三月

『撰集抄』所載行平説話の成立をめぐる覚書——『源氏物語』と散逸『あま入』物語と——

『文学研究』98輯 九州大学大学院人文科学研究院 二〇〇一年三月

女中納言と「宇治」——『今とりかへばや』における〈二人妻説話〉の影——

『国語と国文学』79巻5号 東京大学国語国文学会 二〇〇二年五月

「よそふるこひの一卷」再考

『講座 平安文学論究 第16輯』風間書房 二〇〇二年五月

The Two Versions of the *Torikaebaya Monogatari*: With a Focus on Material Relating to the Fourth Daughter

『ACTA ASIATICA』No. 83 東方学会 二〇〇二年九月

散逸物語『ひとりごと』覚書

『文学研究』100輯 九州大学大学院人文科学研究院 二〇〇三年三月

「傳のとのゝは、うへのめひ也」——『夜の寢覚』の作者についての覚書——

『国語国文学薩摩路』49号 鹿児島大学法文学部国語国文学研究室

二〇〇五年三月

「とりかへ」考——『とりかへばや』とその周辺——

『文学』7巻5号 岩波書店

二〇〇六年九月

「色好み」と「まめ人」と——薫像の定位——

『人物で読む源氏物語 第17巻 薫』勉誠出版 二〇〇六年十一月

「追雛の除目」追考——『苔の衣』補注——

『語文研究』102号 九州大学国語国文学会 二〇〇六年十二月

「苔の衣の御仲らひ」再考——『苔の衣』読解のための覚書——

『中世王朝物語の新研究—物語の変容を考える』新典社 二〇〇七年十月

「それより後の物語は、思へばいとやすきものなり」——

『源氏物語』と物語史——

『源氏物語の展望 第6輯』三弥井書店 二〇〇九年十月

平安物語から中世物語へ——短編物語の位相—— 『平安文学史論考』 武蔵野書院 二〇〇九年十二月

『風葉和歌集』 一首入集散逸物語一覧——平安物語から中世物語へ・補遺——

『文学研究』 107輯 九州大学大学院人文科学研究院 二〇一〇年三月

短編物語の発掘——『風葉和歌集』 二首入集散逸物語の再検討（一）——

『語文研究』 108・109号 九州大学国語国文学会 二〇一〇年六月

「むねいたきおもひ」考——『御津の浜松』 最終巻読解のための覚書——

『語文研究』 111号 九州大学国語国文学会 二〇一一年六月

「けぶりのさがのうれはしさ」——『御津の浜松』 最終巻読解考——

『むらさき』 48輯 紫式部学会 二〇一一年二月

「むねいたきおもひ」の果て——『御津の浜松』 最終巻読解のための覚書——

『源氏以後の物語を考える——継承の構図』 武蔵野書院 二〇一二年五月

交錯する「むねいたきおもひ」——『御津の浜松』 読解のための覚書——

『国語と国文学』 89巻7号 東京大学国語国文学会 二〇一二年七月

『御津の浜松』 における首尾照応をめぐる覚書——「ことの浦」と「にほの海」と——

『語文研究』 114号 九州大学国語国文学会 二〇一二年十二月

『成尋阿闍梨母日記』 私注

『文学研究』 111輯 九州大学大学院人文科学研究院 二〇一四年三月

「人かた」「人こと」「ひともの」考——『御津の浜松』 最終巻読解ノート——

『語文研究』 117号 九州大学国語国文学会 二〇一四年六月

『御津の浜松』 読解考——中納言の人物像理解のために—— 『西日本国語国文学』 1号 西日本国語国文学会 二〇一四年七月

「玉しみのうちに心をはどはすべかりける契り」考――

『御津の浜松』最終巻読解ノート――

『語文研究』118号 九州大学国語国文学会 二〇一四年十二月

『御津の浜松』最終巻本文整定考

『国語国文薩摩路』59号 鹿児島大学法文学部国語国文学研究室

二〇一五年三月

ありし日の王朝物語とそのゆくえ

『學士會會報』921号 学士会 二〇一六年十一月

『在明の別』読解考――「この君はかりかにこもり給て」

を中心に――

『語文研究』122号 九州大学国語国文学会 二〇一六年十二月

『在明の別』巻一本文校訂考

『国語と国文学』95巻5号 東京大学国語国文学会 二〇一八年五月

『在明の別』巻二本文校訂・読解考

『語文研究』127号 九州大学国語国文学会 二〇一九年六月

『在明の別』巻三本文校訂・読解ノート

『文学研究』116輯 九州大学大学院人文科学研究院 二〇一九年三月

『在明の別』私注――巻三、中宮出産の場面を中心に――

『文学研究』117輯 九州大学大学院人文科学研究院 二〇二〇年三月

その他

〈紹介〉徳満澄雄著『我身にたどる姫君物語語全註解』

『語文研究』50号 九州大学国語国文学会 一九八〇年十二月

『古筆手鑑 荻屋釜』（共編）

文献探究の会 一九八二年二月

〈紹介〉今井源衛著『王朝末期物語論』

『語文研究』63号 九州大学国語国文学会 一九八七年六月

〈書評〉神野藤昭夫著『散逸した物語世界と物語史』

『日本文学』47巻8号 日本文学協会 一九九八年八月

〈書評〉 三角洋一著 『物語の変貌』 『源氏物語と天台浄土教』 『王朝物語の展開』

『国語と国文学』 78巻12号 東京大学国語国文学会 二〇〇一年十二月

『散逸物語研究データ・ベースの構築と散逸物語を組み込んだ〈新しい物語史〉の構想 平成13年度～平成15年度科学研究費補

助金 基盤研究 (C) (2) 研究成果報告書 二〇〇四年 二月

〈翻印〉 対馬歴史民俗資料館宗家文庫蔵 歌枕名寄 (共編) 『福岡大学研究部論集』 A..人文科学編 Vol.4 No. 10

福岡大学研究推進部 二〇〇五年 三月

『今井源衛著作集11 王朝末期の物語』 (単独編集) 笠間書院 二〇〇六年 二月

〈座談会〉 源氏物語千年を思う 今井源衛、稲賀敬二の軌跡に寄せて (共編) 『レポート笠間』 48号 笠間書院 二〇〇七年十一月

活字離れのすゝめ——日本古典文学の愉しみかた—— 『九州大学文学部人文学入門4 テクストの誘惑フィロロジの射程』

九州大学出版会 二〇一二年 九月

九州大学附属図書館蔵 『たまも』 翻刻と解題 (上) (共編) 『文献探究』 52号 文献探究の会 二〇一四年 三月

九州大学附属図書館蔵 『たまも』 翻刻と解題 (下) (共編) 『文献探究』 53号 文献探究の会 二〇一五年 三月

中世王朝物語研究事始 『中世文学』 62号 中世文学会 二〇一七年 六月

〈書評〉 後藤康文著 『堤中納言物語の真相』 『図書新聞』 二〇一七年七月十五日付け 二〇一八年 九月

『今井源衛著作集6 源氏物語の鑑賞・研究二』 (単独編集) 笠間書院 二〇一八年 九月

〈書評〉 大倉比呂志著 『風に紅葉考——百花繚乱する〈性〉への目差し——』 『国文学研究』 187集 早稲田大学国文学会 二〇一九年 三月

『在明の別』 本文校訂箇所一覧 (稿) (共編) 『文献探究』 57号 文献探究の会 二〇一九年 三月